

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会  
発行人 前田 寛  
編集者 西田 隆  
印刷所 東京 都立印刷局  
電話 東京 2426-3337  
東京 2426-3337

## 集団宿泊指導の積み重ねを

### 第3回全国修学旅行研究大会



満場の参会者にあいさつする全修協山本理事長 (11月14日 神戸市)

## 生徒の自己学習力が育つ 修学旅行実践記録の発表

第三回全国修学旅行研究大会は、財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)と近畿地区公立中学校修学旅行委員会(土居克己会長、兵庫県西宮市立深津中学校校長)が主催し、文部省は、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫の各府県教育委員会の後援、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(石田俊一郎会長、愛知県豊橋市立中部中学校校長)の協賛を得て、去る十一月十四日、兵庫県立会館(神戸市)において開催された。「集団宿泊指導の積み重ねによる修学旅行」をテーマに、中学校生活三年生を通じて行う総合的学習活動として修学旅行を位置づけた実践記録の発表は、三百余名の参会者に多大の感銘を与え、教育上の好参考資料を提供した。

会は、佐々木達三氏(京都府立岡山市立岡第四中学校長)が司会をつとめ、先ず土居会長から、近畿地区公立中学校修学旅行委員会、財団法人全国修学旅行研究協会の修学旅行改善向上に果たしてきた実績を紹介、本日の研究大会に多数の参会者を得た喜びの

ことばをのべて、開会の辞とついで、主催者を代表して全修協山本理事長は、「文部省の高橋先生をはじめ全国から三百名を超える先生方が、去る十月二十日に教育課程審議会の「教育課程の基準の改善に関する基本方向について」(中間まとめ)が公表された(八ねらい)別掲。これは今後幼、小、中、高校の各教科審議会で具体化を図る検討事項を示している。これの特別活動、修学旅行に関する深い部分について所見をのべる。

①学校活動及び学級指導 現行の実施状況によると、両者のねらいの混同がみられる一方、前者では教師の指導が適切でなく、後者では「望ましい集団活動」が十分でない。同じ学級を単位とした生徒の活動であることなど、両者の共通点を重視し「統合」による弾力的指導が検討される。今後の方向として、両者をあわせ、各内容のねらいを

それを伸展させる実践研究の重要性、さらに全修協活動の一段の充実を期待することも、国際都市神戸の一端を紹介して会の成功を祈念するとの祝辞があった。

続いて研究発表に移り、兵庫県西宮市立甲陽中学校教諭坂東二氏から、去る六月十一日から十三日に実施した信州黒川、根川(つがひ)地方修学旅行について、一年生次からリーダーの養成と、生徒各自の自己学習力の育成の過程、さらに長期的、計画的な事前指導を加えて成功に導いた全貌を、スライドの映写(大西教諭担当)を交えながら展開した。

以上を念頭に本論を進める。1. 修学旅行の意義と目的(自己学習力、後半は自己指導力の重視である。両校の発表は課題解決学習を多分に盛り込み、この要請に的確に答えている。修学旅行のね

に奈良・京都を見て東西文化の交流に思いをはせる。国際理解に果す修学旅行の意義は極めて大きい。次に改善の方向が明示されているので、この趣旨に沿って次の事項を列挙する。

1. 修学旅行の意義やねらいを達成する指導の方法や形態・生徒の主体的活動を重視し、望ましい集団活動の場や機会を十分用意すること。

2. 自己の今後の目標となるような奉仕活動を用意すること。

3. 問題解決、課題解決学習の場を用意すること。



高橋哲夫氏

## 特別活動の充実と 今後の修学旅行のあり方

文部省初等中等教育局 教科調査官 高橋哲夫氏 (講演要旨)

1. (1)は知、情、意、徳・体の調和のとれた人間形成をめざしている。修学旅行のね

1. (2)は前半は自己教育力の交流に思いをはせる。国際理解に果す修学旅行の意義は極めて大きい。

2. 自己の今後の目標となるような奉仕活動を用意すること。

3. 問題解決、課題解決学習の場を用意すること。

4. 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団活動の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常套の改善に努力しつつ教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務である。(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

に実施した信州白樺高原方面修学旅行を、学校の教育目標の具現化をめざす特別活動の目玉であると位置づけ、レクリエーションの色彩を多分に盛り込んだ野外活動を通して、主体的、個性的な生徒の育成をはかった実践報告を行った。

次に、文部省教科調査官高橋哲夫氏の「特別活動の充実と今後の修学旅行のあり方」と題する講演があり、去る十月二十日教育課程審議会から発表された「中間まとめ」を下敷に、今後の教育課程の基盤の改善の基本方向を、特別活動、学校行事、修学旅行にのぼって、誠にタイムリーな示唆に富んだ所見を述べられた。(内容別掲)

最後に、本日の発表に関する研究協議を行い、浜田宏作氏(大阪府富田林市立第三中学校長)の閉会の辞によって大会の幕を閉じた。

二つの発表と文部省の講演が、三百余名の参会者に修学旅行の進歩発展をめざす新たな意欲を湧かせ、多大の感銘を与えたことは、アンケートの結果からも明らかである。なお、今回のテーマの設定にあたっては、最近全国的な傾向として、単なる学年行事

として修学旅行をとらえるのではなく、入学以来の好ましい集団活動の積み重ねと、その集大成として修学旅行を位置づける学校が増加し、これに応ずるよう考慮されたものである。

## 第4回研究大会は東海で 三地区修学旅行連臨時総会

第三回全国修学旅行研究大会終了後、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(石田俊一郎会長、豊橋市立中部中学校校長)の臨時総会が、十一月十五日兵庫県で開催された。

土居克己副会長(西宮市立深津中学校校長)が開会を宣し、石田会長、財団法人山本理事長、文部省高橋教科調査官の挨拶の後、石田会長を議長に選び、議事に入った。

報告事項として、飯野副会長(宇都宮市立東が丘中学校長)から(1)修学旅行費等の補助金増額に関し文部省陳情

に奈良・京都を見て東西文化の交流に思いをはせる。国際理解に果す修学旅行の意義は極めて大きい。

次に改善の方向が明示されているので、この趣旨に沿って次の事項を列挙する。

## 風紋

「四国巡拝一度はなさい、モッタナイ、共に大師と南無、二人連れよ、遍照金剛」の唄につられて今静かなアムを呼んでい

る。野坂昭如の見聞記に、いずれも大荷物十五日の旅、毎朝五時出発、平均四里の徒歩、男女一対三、半数遺骨か位牌持参。まず朝の股若心経、次いで替え唄大会小休止後御詠歌の斉唱、「ウツ」(おまえりの時必ず納経を行う。今は一寺あたり三十四円出せば納経のしるしの判がいたされる。添乗員は判つきに精を出す。人によっては軸何本もかえ、何万円でも売りたいという声がある)昔四国八十八箇所巡礼は千四百キロ、徳島北東の霊山寺より出発、海岸線をたどり、高知、愛媛、香川への苦しい旅であった。病氣平癒祈願で主で、特にハンセン病患者は人知れぬケモノ道を行く。彼岸に捨てられたものとして自らの苦行によってしか救われぬ痛ましさがあつたが、弘法大師の姿を求めて歩くことが通過する者の行であり、ともに歩くという喜びがあつた(同行二人)。

「遍路には暗い面ばかりでなく様々な幅をもっている。緑談、商売の再興、豊作祈願、未婚女性の見聞修業、戦時中の徴兵のがれ、武運長久祈願、犯罪逃亡の場ともなった。職なく、飢え、人生と生活に追いこまれた捨身の脱出(娘巡礼記)高群逸江)もある。遍路は辺境の地四国に様々な文化をもたらした。石灰業の輸入、釣針製法の輸出等々。今や巡礼文化の交流を再考する時機にきていると思う。

信頼される旅づくり

## 先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません!」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。

先生と、そして友と行った修学旅行。かけがえないふれあいが、よき思い出としてひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。

ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

**近畿日本ツーリスト** 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111 営業所 国内242ヵ所(登録) 海外13ヵ所

© 運輸大臣登録一般旅行業第20号

昭和60年に奈良市内宿泊の  
出発地別修学旅行校数、人員

(単位：校、千名)

区分	小学校		中学校		高等学校他		合計	
	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員
北海道	-	-	-	-	59	16	59	16
東北	-	-	-	-	165	41	165	41
関東	4	0	378	89	185	56	567	145
中部	379	51	465	94	103	27	947	172
近畿	62	6	3	0	14	1	79	7
中国	151	18	126	18	19	2	296	38
四国	44	5	54	9	4	0	102	14
九州	-	-	65	9	57	14	122	23
沖縄	-	-	-	-	6	1	6	1
合計	640	80	1,091	219	612	158	2,343	457

60年は45万7千名  
奈良市の修旅宿泊実績

奈良県および奈良市がまとめたところによると、昭和六十一年中に奈良県に宿泊した修学旅行団体の人員は六十七万八千名、うち奈良市内に宿泊した人員は四十五万七千名であった。奈良市を訪れた修学旅行生は、三十七万五千名となつており、宿泊者は全体の16.9%と少なく、前年の四十八万五千名よりも二万八千名減少した。

宿泊した人員を出発地別にみると、中部十七万二千名、



②関西の修学旅行については、その寺の文化財見学の主となるが、その場合、旅行業者は有名どころをできるだけ多く見せようとする。それもやむを得ないところであるとしても、修学旅行であるからには学校でポイントとなる文化財を選んでおいて、そこを重点的に学習できるように事前学習をしておかねばならぬ。その場合、重要なことは、何の目的で見せるかということと、生徒にどの位置で教師が説明するかということであつて、これだけは業者がまかせせず、学校が責任



をもつて実施しなければ、修学旅行の名実を失つてしまふことになるだろう。

例えば、法隆寺と東大寺と京都の知恩院の南門と中門を例にあげてみよう。この三者は南門の意味(知恩

修学旅行の位置づけ(3)

元豊中市教育長

北原 富男

はじめて中門の全容が現れるが、金堂と塔は依然としてその屋根を現すだけである。この寺の南門は神秘的な意味を持つており、中にあつたものへの「あこがれ」の門ともいへば可いものであつた。

徒を南門の前に立ちどまして、この門をくぐつたら何が現れるだろうかという期待感をもたせなければ法隆寺を訪れた意味がない。これに対して、東大寺の南門は極端に大きく、その

松並木の参道から小さな南門を通して見える中門の柱は刻々に変化して現れる。南門をくぐつたら何が現れるだろうかという、中心へあこがれをおこさせるものである。だから生かすには、中門

62年度修学旅行費1.3%増  
教委の諮問に答申

京都・大阪・神戸三市

〔関西支局〕京阪神三市修学旅行委員会(山城隆会長・大阪市教育委員会指導部長)は十一月十三日、大阪市立直根崎小学校で、六十二年修学旅行の行程等の研究を行うとともに、さき京都・大阪・神戸三市の教育委員会から諮問をうけていた六十二年修学旅行の各方面別費用の答申内容を別記のとおり平均一・三%増と決めた。

答申内容は次のとおり。

六十二年修学旅行費平均一・三%アップ

①関東(富士・箱根方面)三万四千九百三十一円(二・一%アップ) ②信州(白樺湖・志賀高原)三万二千四百四十四円(二・一%アップ) ③信州(白馬地区)三万五千八百九十四円(三・四%アップ) ④信州(白樺湖・豊科方面)三万五千九百四十円(二・四%アップ) ⑤北陸(立山・黒部)三万三千八百七十一円(大阪) ⑥北陸(立山・大観峰方面)三万七千六百六十円(大阪) ⑦富山(金沢) 大阪(引子) 新設コース ⑧中国(広島) 秋吉台方面三万五千五百五十五円(一・七%アップ) ⑨中国(九州) 阿蘇・秋吉台方面三万八千二百三十五円(二・〇%アップ) ⑩九州(阿蘇) 別府方面三万七千八百四十四円(二・五%アップ) ⑪九州(阿蘇) 別府方面(片道船利用)三万七千四百七十七円(二・九%アップ)

六十一年度の反省と問題点

○船利用(大阪市、船利用減) (一般客と同乗の問題点) 神戸市、小中規模校好評(食事等)、大規模校好評ならず。

業務用寝具を全国のホテル、旅館へ  
羽根布団から実用布団まで

リースと販売もいたします。

ムラタ寝具工業所

〒612 営業所 京都市伏見区京町5丁目77-7 ☎075(601)5371(代)  
〒610-01 工場 京都府城陽市観音堂甲畑57 ☎07745(2)0191



田尻 貴氏(たじり・たか) 財団法人修学旅行研究協会 宮崎県支部長、宮崎県教育公務員弘済会理事(長)

十二月二日午後一時三十分、胆道閉塞症のため、宮崎市郡医師会病院で死去、八十八歳。葬儀は四日正午から宮崎市大工二丁目弘益社斎場で行われ、県内外から多数の会葬者があつた。

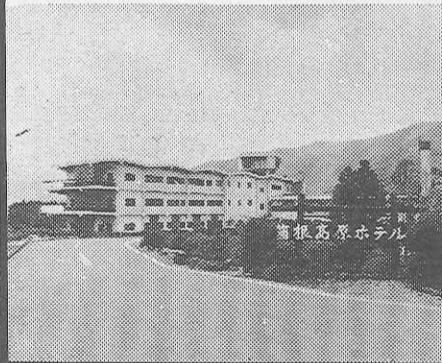
喪主は妻アキさん。自宅、宮崎市清水一〇一〇。

田尻氏は宮崎県高千穂町出身。大正十四年宮崎師範卒業後、小学校教諭、県視学、県教育委員会などを歴任。

全修協では昭和三十年創立以来宮崎県支部長として三十二年間にわたり、修学旅行の改善と教職員研修旅行の拡大に尽力、特に、研修旅行創設当時、九州一周研修旅行団の宮崎地区における熱心な歓迎ぶりは、今も語り草になつて

謹んでご冥福を祈ります。

眼下に芦の湖、ひろがる湖尻高原。  
静寂のなかに憩いのひととき。



〈修学旅行の専用旅館〉  
〒250-05 神奈川県箱根町湖尻高原  
**箱根高原ホテル**  
電話0460-4-8595(代表)

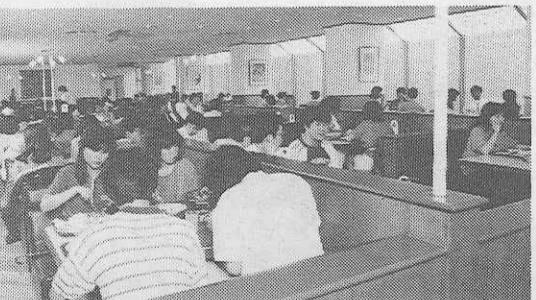
さわやかな奥日光の高原で素晴らしい  
修学旅行の一夜をお過ごし下さい。



そのほか  
冬期はスキー教室  
夏期は林間学校

**奥日光高原ホテル**  
〒321-16  
日光市湯元2549-6  
(TEL) 0288-62-2121代表

修学旅行の楽しいお食事—  
箱根彫刻の森美術館内  
レストラン ゴンポート

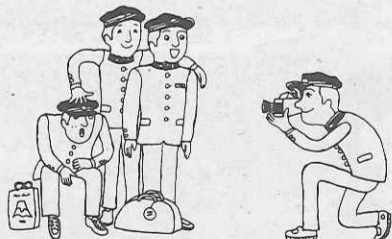


◇500名様迄、ご利用いただけます。  
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-04  
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121  
☎0460(2)1141(代表)

楽しい修学旅行を、

より安心  
出来るものに



「国内旅行傷害保険」  
修学旅行用をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-212-6211(代表)